

教職課程（保健体育）専攻学生の剣道に対する意識

— 剣道経験の違いによる意識の実態と変化 —

A study on the consciousness towards Kendo among Students Majoring in
Teacher-training (Health and Physical Education) :

Change in Perception due to Different Experiences in Kendo.

体育学部体育学科

平田 佳弘

HIRATA, Yoshihiro

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

櫻間 建樹

SAKURAMA, Tateki

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

岡山県立大学保健福祉学部

京林由季子

KYUBAYASHI, Yukiko

Department of Health and Welfare Science

Okayama Prefectural University

体育学部体育学科

中尾 道子

NAKAO, Michiko

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

キーワード：剣道，意識，大学生，剣道経験

Abstract : Through the execution of a survey research (32 questions), this study aims to reveal how students majoring in teacher-training (health and physical education) perceive Kendo, whether a different experience in Kendo leads to disparity in consciousness, and the change in consciousness before and after Kendo lessons. Results show that discrepancies in consciousness due to different experiences in Kendo were found in 9 sections of questions regarding “whether Kendo is sport or martial arts”, “Kendo rules”, and “safety” before lesson. At the same time, differences in attitude were also observed in 9 other sections of questions regarding “popularization measure” and “interest” after lesson. Furthermore, just as some disparities in consciousness due to different experiences in Kendo disappeared after lesson, new disparities also emerged. These findings suggest that consciousness toward Kendo among students and the change in that consciousness do differ according to their own individual experience in Kendo; thus, students need to set separate learning objectives to match their level of experience in Kendo.

Keywords : Kendo, consciousness, college student, Kendo experience

I. はじめに

平成20年1月の中央教育審議会答申により、保健体育科における武道の指導を充実し、我が国固有の伝統や文化により一層触れることができるようにすることが重要であるとの見解が示され（中央教育審議会，2008，7（3）），その年の3月の中学校学習指導要領の改訂によって中学校での武道が必修化された（文部

科学省，2008，第2章7節）。この中学校新学習指導要領は，平成24年度から完全実施され，現在では中学校に保健体育の学習内容として「武道（柔道・剣道・相撲）」が必修化されている。

平田ら（2013）は，中学校における武道の必修化に伴う剣道授業の問題点について，指導教員の授業内容の研究・工夫が最も大切であると指摘している。例えば，中学校学習指導要領では，技能，態度，知識・思

考・判断の学習目標や授業で取り扱う基本動作や技が例示されているが、実際の授業の中で生徒たちにそれをどう伝えていくかが最も重要な部分といえよう。このためには、体育教員への剣道の研修や体育教員と剣道経験者（他教科の剣道経験者）のチームティーチングによる指導体制の工夫なども取り組むべき課題ではあるが、すべての体育教員が剣道授業を实践できるように大学の教員養成課程における養成を行うことが最も基本となろう。しかしながら、現在の教職課程の学生は中学校の武道必修化を経験していないため大学で初めて武道（剣道）を経験する学生も多く、剣道経験の程度は様々であり、その養成は移行期である現在の早急な課題と考えられる。

そこで、中学校の武道必修化に対応した大学の教職課程における剣道授業のねらいや内容について検討するため、学生の剣道に対する意識や学習ニーズを明らかにする必要がある。

II. 目的

本研究では、教職課程（保健体育）を専攻する学生の剣道に対する意識について、剣道経験の違いによる意識の実態と、教職課程の剣道授業履修前後において、その意識がどのように変化するのかを明らかにすることを目的とする。

III. 方法

1. 調査対象

A大学教職課程保健体育専攻学生のうち実技科目である「剣道Ⅰ（基礎）」の受講生を調査対象とした。

2. 調査内容

浅見ら（1995）の現代青年の剣道観に関する調査票を基に質問紙を作成した。調査項目は以下の2項目である。

①剣道経験の有無

②剣道に対する意識 32項目（5段階の評定尺度による回答）

調査は2013年度、及び、2014年度の「剣道Ⅰ（基礎）」の履修前後に実施した。

3. 分析対象と分析方法

調査対象となった150名の内、事前調査と事後調査の両方に回答し、かつ、欠損値がない者88名を分析対象とした。

剣道に対する意識32項目の回答は、「そう思わな

い 1点」「あえていえばそう思わない 2点」「どちらともいえない 3点」「あえていえばそう思う 4点」「そう思う 5点」を得点として換算し、平均得点と標準偏差を算出した。統計分析にはエクセル統計2015を用いた。

4. 「剣道Ⅰ（基礎）」の概要

「剣道Ⅰ（基礎）」は、剣道の礼法や基本動作を身につけること、剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的としている科目である。授業内容は実技を中心とし、服装用具、礼法（姿勢、正座）、基本動作（竹刀の構え方と納め方、足裁きと素振り、基本の打突、面打ち、小手打ち、胴打ち、切り返し、など）、互角稽古・試合について学習を行い、将来、体育教員として剣道の授業が実践できるようになることを目指している。

IV. 結果及び考察

1. 対象者の剣道経験について

「剣道Ⅰ（基礎）」受講学生の内、分析対象者の剣道経験は、一度も剣道を経験したことがない「経験なし群」、授業のみで剣道を経験したことがある「授業群」、部活動や地域の道場で剣道経験のある「部活・道場群」の3群に分類した（表1）。

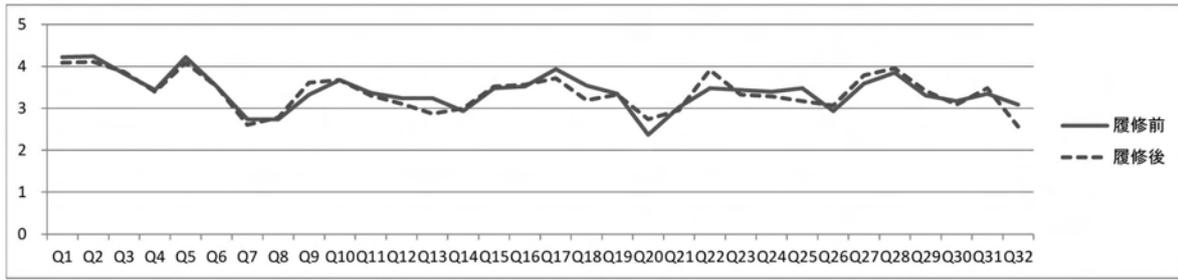
分析対象者は剣道経験のない受講生が最も多く、授業での剣道経験者は最も少なかった。中学校での剣道授業は必修化になる前であったため、授業や部活動で剣道を経験している受講生もいるものの、その多くは剣道の経験がなく、体育教員が実践する剣道授業のイメージについては希薄な受講生が多いと考えられた。

表1 対象者の剣道経験の内訳

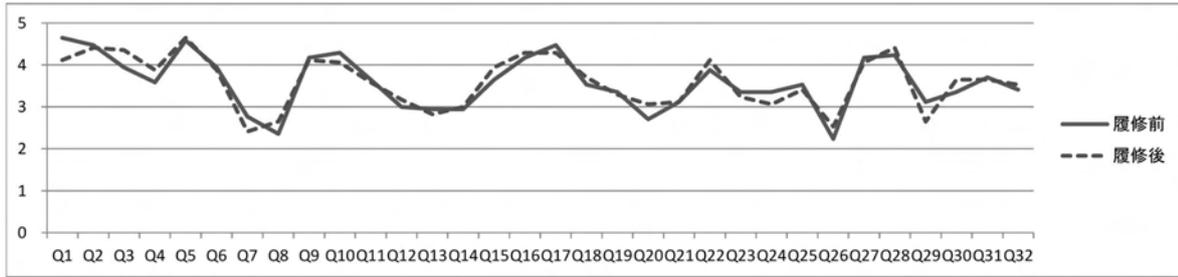
剣道経験の程度	性別		合計
	男	女	
経験無し	35	11	46 52.3%
授業	14	3	17 19.3%
部活・道場	19	6	25 28.4%
合計	68	20	88 100.0%

表2 剣道に対する意識

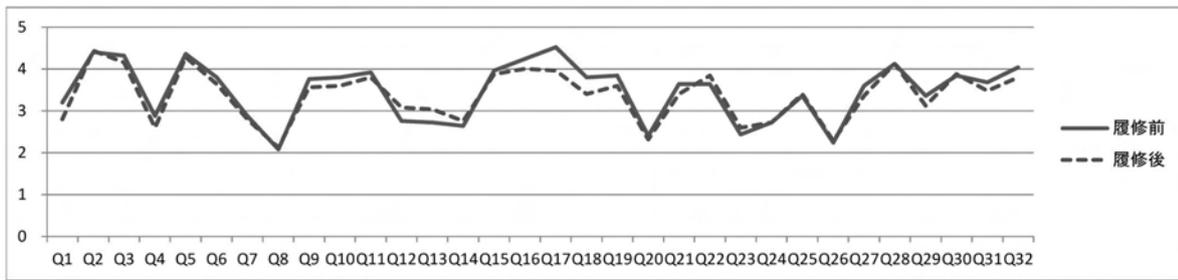
項目	全体				経験なし群					授業群					部活群					
	履修前		履修後		t値	履修前		履修後		t値	履修前		履修後		t値	履修前		履修後		t値
	M	SD	M	SD		M	SD	M	SD		M	SD	M	SD		M	SD	M	SD	
Q1 剣道はスポーツの一種目である。	4.01	1.27	3.73	1.43		4.22	1.17	4.09	1.21		4.65	0.70	4.12	1.27		3.20	1.38	2.80	1.53	
Q2 剣道はスポーツではなく、日本独特の武道である。	4.33	0.97	4.26	1.11		4.24	0.97	4.11	1.10		4.47	1.01	4.41	1.06		4.40	0.96	4.44	1.16	
Q3 剣道をおこなう人たちは、年齢(先輩・後輩)の上下関係を重視している。	3.99	1.19	4.05	1.08		3.83	1.22	3.87	1.11		3.94	1.20	4.35	0.93		4.32	1.11	4.16	1.11	
Q4 剣道をオリンピック種目にするよう働きかけるべきである。	3.31	1.11	3.26	1.12		3.43	0.96	3.39	1.02		3.59	1.23	3.88	1.05		2.88	1.20	2.60	1.04	
Q5 剣道の道場は、気持ちひきしまるような雰囲気を保つべきである。	4.33	0.94	4.25	0.93		4.22	0.99	4.09	0.89		4.59	0.71	4.65	0.61		4.36	0.99	4.28	1.10	
Q6 剣道の試合では、声援や鳴り物のにぎやかな応援を認めるべきでない。	3.68	1.21	3.63	1.25		3.52	1.21	3.52	1.24		3.94	1.09	3.88	1.17		3.80	1.29	3.64	1.35	
Q7 剣道はケガが少なく、安全である。	2.78	1.13	2.63	1.05		2.74	1.20	2.61	0.98		2.76	0.97	2.41	1.06		2.88	1.13	2.80	1.19	
Q8 剣道の教えや理論は古くて理解できない。	2.48	1.14	2.57	1.05		2.74	1.08	2.78	0.99		2.35	1.27	2.65	1.17		2.08	1.08	2.12	0.97	
Q9 剣道では、高齢者と若者とが対等に競い合える。	3.61	1.18	3.69	1.16		3.33	1.12	3.61	1.06		4.18	0.88	4.12	1.11		3.76	1.33	3.56	1.33	
Q10 剣道の上達のためには、きびしい練習が不可欠である。	3.83	1.05	3.73	1.11		3.67	1.14	3.67	1.01		4.29	0.77	4.06	1.14		3.80	1.00	3.60	1.26	
Q11 剣道では、技術よりも気力が重視されている。	3.58	0.98	3.50	1.02		3.37	0.90	3.30	0.96		3.65	1.06	3.59	1.12		3.92	1.00	3.80	1.00	
Q12 剣道では、気力よりも体力が重視されている	3.06	0.88	3.11	0.88		3.24	0.74	3.11	0.80		3.00	0.87	3.18	1.07		2.76	1.05	3.08	0.91	*
Q13 剣道では、技術よりも体力が重視されている。	3.03	0.99	2.91	0.88		3.24	0.90	2.87	0.83	*	2.94	1.03	2.82	0.81		2.72	1.06	3.04	1.02	
Q14 剣道を続けている人には、かたくなしい雰囲気がある。	2.85	1.28	2.93	1.22		2.93	1.25	3.00	1.12		2.94	1.43	3.00	1.27		2.64	1.25	2.76	1.39	
Q15 剣道は子どもの時代から多くの人達に広めていくのがよい。	3.65	0.82	3.70	0.94		3.48	0.75	3.52	0.81		3.65	0.79	3.94	0.83		3.96	0.89	3.88	1.17	
Q16 剣道を続けていると、日常生活でも礼儀正しくなる。	3.85	1.07	3.83	1.13		3.52	1.09	3.57	1.15		4.18	0.81	4.29	0.77		4.24	1.01	4.00	1.19	
Q17 剣道を続けていると、良い姿勢が身につく。	4.20	0.90	3.90	1.07	*	3.93	0.98	3.72	1.07		4.47	0.72	4.29	0.77		4.52	0.71	3.96	1.21	*
Q18 剣道を続けている人は自分にきびしく、しっかりしている。	3.61	0.99	3.35	1.04	*	3.54	0.89	3.20	1.00	*	3.53	1.01	3.71	0.92		3.80	1.15	3.40	1.15	
Q19 剣道をおこなう人たちは、段位の上下関係を重視している。	3.49	0.91	3.40	1.00		3.35	0.90	3.33	0.90		3.35	0.79	3.29	0.99		3.84	0.94	3.60	1.19	
Q20 剣道の技術は、誰にでもすぐに体得できる。	2.44	1.05	2.68	1.13		2.37	1.10	2.74	1.12		2.71	0.92	3.06	1.03		2.40	1.04	2.32	1.14	
Q21 剣道を続けていれば、社会につくそうとする考えを持つようになる。	3.22	1.03	3.11	1.08		3.02	0.91	2.96	1.11		3.12	1.22	3.12	1.11		3.64	1.04	3.40	0.96	
Q22 剣道の有効打突(一本)の判定は、観る人にとってわかりにくい。	3.60	1.16	3.93	0.99	*	3.48	1.13	3.91	0.98	*	3.88	1.17	4.12	0.86		3.64	1.22	3.84	1.11	
Q23 剣道のルールはむずかしくて理解できない。	3.14	1.13	3.10	1.11		3.43	0.98	3.33	1.06		3.35	0.93	3.24	0.97		2.44	1.23	2.60	1.19	
Q24 剣道での打ち合いは痛みが強く、危険である。	3.19	1.07	3.08	1.06		3.39	1.04	3.28	0.96		3.35	1.00	3.06	1.03		2.72	1.06	2.72	1.21	
Q25 剣道を長年にわたって続けている人は、誠実であり信頼できる。	3.45	0.95	3.28	1.07		3.48	0.81	3.17	1.02		3.53	1.12	3.41	1.23		3.36	1.08	3.40	1.08	
Q26 剣道のきびしい練習をのりこえられる人は、限られた有能な人だけである。	2.60	1.18	2.74	1.08		2.93	1.06	3.07	0.90		2.24	1.20	2.53	1.12		2.24	1.23	2.28	1.17	
Q27 剣道をもっと外国に広めていくべきである。	3.70	0.97	3.72	1.01		3.59	0.86	3.78	0.94		4.18	0.88	4.06	0.90		3.60	1.15	3.36	1.11	
Q28 剣道の伝統的な気風や習慣はそのまま伝承すべきである。	4.00	0.95	4.09	0.91		3.85	0.97	3.96	0.94		4.24	0.90	4.41	0.80		4.12	0.93	4.12	0.88	
Q29 剣道をおこなう人たちは、身分(肩書)の上下関係を重視している。	3.28	1.10	3.18	1.06		3.30	0.89	3.41	0.83		3.12	1.27	2.65	1.00		3.36	1.35	3.12	1.33	
Q30 剣道の有段者(または高段者)になってみたい。	3.40	1.12	3.42	1.27		3.17	1.02	3.09	1.15		3.35	1.32	3.65	1.37		3.84	1.07	3.88	1.27	
Q31 剣道の試合は、観る人を引きつける。	3.51	0.86	3.51	0.98		3.35	0.71	3.48	0.94		3.71	0.92	3.65	0.86		3.68	1.03	3.48	1.16	
Q32 剣道をおこなってみたい(続けたい)。	3.42	1.04	3.10	1.30	*	3.09	0.96	2.57	1.13	*	3.41	0.87	3.53	1.12		4.04	1.02	3.80	1.32	



「経験なし群」

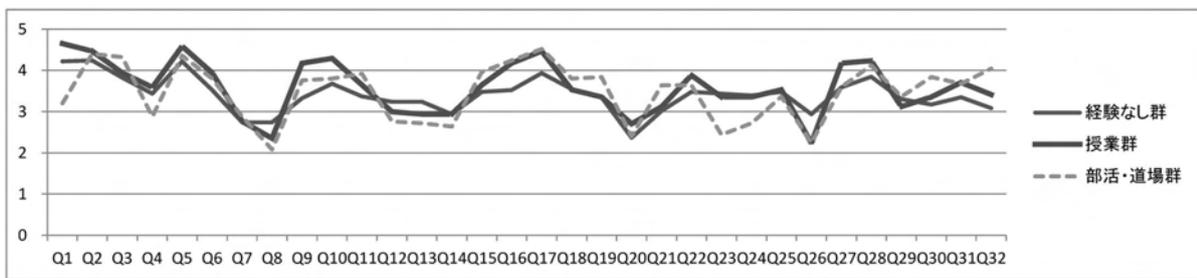


「授業群」

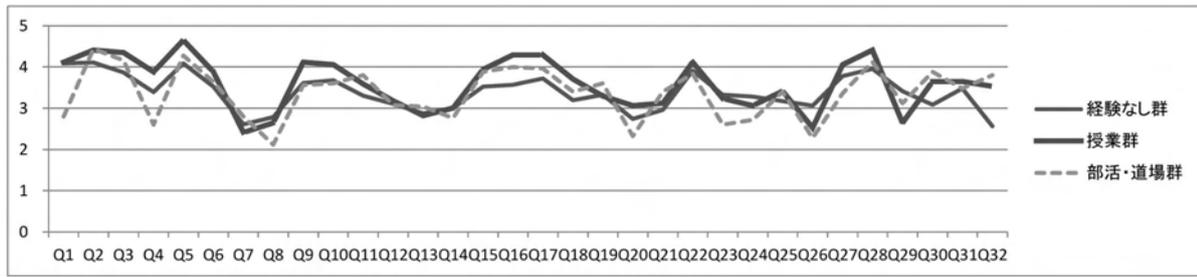


「部活・道場群」

図1 剣道に対する意識プロフィール（履修前後の比較）



履修前



履修後

図2 剣道に対する意識プロフィール（経験別の比較）

2. 剣道に対する意識の実態

表1は、「剣道I（基礎）」履修前後における分析対象者の剣道に対する意識の結果について示したものである。また、「経験なし群」「授業群」「部活・道場群」それぞれの履修前後の意識のプロフィールを図1に示す。

(1) 履修前の意識

対象学生の剣道に対する意識について、全体としては、「Q1 剣道はスポーツの1種目である」（スポーツか武道か）、「Q2 剣道はスポーツではなく、日本独特の武道である」（スポーツか武道か）は、ともに4点以上であり、剣道を日本独特の武道と捉える傾向が高いが、同時に、スポーツ的に捉える傾向も高かった。また、「Q5 剣道の道場は、気持ちひきしまるような雰囲気を保つべきである」（雰囲気）、「Q17 剣道をしていると、良い姿勢が身につく」（人間形成）、「Q28 剣道の伝統的な気風や習慣はそのまま伝承すべきである」（伝統的教えや習慣）も4点以上と肯定的に捉えていた。一方、「Q7 剣道はケガが少なく安全である」（安全性）、「Q8 剣道の教えや理論は古くて理解できない」（伝統的教えや習慣）、「Q14 剣道をしている人には、かたくるしい雰囲気がある」（雰囲気）、「Q20 剣道の技術は、誰にでもすぐに体得できる」（技能向上と鍛錬性）、「Q26 剣道のきびしい練習をのりこえられる人は、限られた有能な人だけである」（技能向上と鍛錬性）は、いずれも3点未満であり、安全性や伝統的教えや習慣、雰囲気、技能向上と鍛錬性などについては否定的に捉えている傾向が見られた。

剣道の経験別では、分散分析により有意差が見られた項目は9項目であった。「Q1 剣道はスポーツの1種目である」（スポーツか武道か）、「Q9 剣道では高齢者と若者が対等に競い合える」（技能特性）、「Q16 剣道をしていると日常生活でも礼儀正しくなる」（人間形成）、「Q17 剣道をしているとよい姿勢が身につく」（人間形成）、「Q21 剣道をしていけば、社会につくそうとする考えを持つようになる」（人間形成）、「Q23 剣道のルールはむずかしくて理解できない」（ルール）、「Q24 剣道での打ち合いは痛みが強く、危険である」（安全性）、「Q26 剣道のきびしい練習をのりこえられる人は、限られた有能な人だけである」（技能向上と鍛錬性）、「Q32 剣道をおこなってみたい（続けたい）」（興味・関心）の9項目は、いずれも「経験なし群」と「部活・道場群」で有意差が見られた。Q1とQ23については、

「授業群」と「部活・道場群」の間にも有意差が見られた。「部活・道場群」ほど、剣道の人間形成の面について肯定的な傾向であり、技能特性の理解や興味・関心も大きい。「経験なし群」では、剣道をスポーツと捉える傾向が高いが、安全性に否定的でルールの理解や興味・関心も低い傾向は先行研究（浅見，1995）と同様である。

(2) 履修後の意識

全体では、履修後の剣道に対する意識について履修前から変化が見られた項目は、以下の4項目であった。「Q22 剣道の有効打突の判定は、観る人にとって分かりにくい」（ルール）は肯定的に変化（ $p<.05$ ）、「Q17 剣道をしていると、良い姿勢が身につく」（人間形成）、「Q18 剣道をしている人は自分にきびしく、しっかりしている」（人間形成）、「Q32 剣道を行ってみたい」（興味・関心）はいずれも否定的に変化（ $p<.05$ ）した。

剣道の経験別では、分散分析により有意差が見られた項目は9項目であった。履修前と同様の有意差が見られたのはQ1、Q16、Q23、Q26、Q32の5項目であった。「経験なし群」では以下の4項目で変化が見られた。「Q22 剣道の有効打突の判定は、観る人にとって分かりにくい」（ルール）は肯定的に変化（ $p<.05$ ）、「Q13 剣道では技術よりも体力が重視されている」（技能特性）、「Q18 剣道をしている人は自分にきびしく、しっかりしている」（人間形成）、「Q32 剣道を行ってみたい」（興味・関心）は否定的に変化（ $p<.05$ ）した。

「授業群」は履修前後で変化した項目はなかった。

「部活・道場群」では、以下の2項目で変化が見られた。「Q12 剣道では気力よりも体力が重視されている」（技能特性）は肯定的に変化（ $p<.05$ ）、「Q17 剣道をしていると、良い姿勢が身につく」（人間形成）は否定的に変化（ $p<.05$ ）した。

Q12、Q13は、剣道の（技能特性）に関する意識とされる項目である。剣道は、体力のみに頼るものではなく、「気力、技術、体力」と言われるように精神力や経験が重要視される。このことが、剣道では老若男女が対等に競い合えることが大きな魅力の一つであるとも言われており（酒井他，1999）、このような剣道の特性が生涯スポーツともいわれる理由とされている。「経験なし群」では授業を通して、剣道は体力のみに頼るものではないことの理解が進んだが、「部活・道場群」は、体力重視を肯定的に捉える方向に変化した。部活動という競技スポーツにおける勝利至上

主義の影響も考えられる。

Q17, Q18は、剣道における（人間形成）に関する意識とされる項目である。金（2010）、田中（2007）らの先行研究によれば、剣道は礼儀作法、正しい姿勢などには影響を与えるものの、誠実さや信頼度といった内面的なことには影響を与えないと指摘している。「経験なし群」のQ18は、これを支持する方向へ変化しているが、「部活・道場群」のQ17「良い姿勢」が否定的な方向へ変化している理由については今後検討する必要がある。

Q22は剣道の（ルール）に関する意識とされる項目である。剣道の「有効打突」の判定は、剣道経験がないものにとっては理解しにくいものの1つであり、剣道経験が長くなるほど、剣道のルールや有効打突の判定に対する理解が増す（草間、1993；金、2007）という先行研究の結果と同様の結果と言えよう。

Q32は剣道に対する（興味・関心）に関する意識とされる項目である。「経験なし群」は、剣道への関心は履修前も低い傾向にあったが、履修後にはさらに関心は低くなっている。これは、Q22の有効打突の判定の分かりにくさの項目と関係していると考えられる。つまり、剣道の判定やルールの難しさを体験したことで、敷居が高いものとして剣道への関心が低下したと言えよう。浅見（1994）は、見ても感動できるように有効打突の判定基準を鮮明にし、剣道の喜びを分

かりやすくすることが検討課題と指摘しているが、本研究においてもこれを支持する結果となった。

3. 履修前後の意識の変化

剣道経験の違いによる剣道に対する意識の差が、履修前後にどのように変化したかを表3にまとめた。剣道経験の違いによる意識の差が履修前後を通して変化しなかったものは5項目（Q1, Q16, Q23, Q26, Q32）、履修後に有意差が見られなくなったものは4項目（Q9, Q17, Q21, Q24）、履修後に新たに有意差が生じたものは4項目（Q4, Q8, Q29, Q30）であった。

履修後に有意差が見られなくなった「Q9 剣道では高齢者と若者が対等に競い合える」（技能特性）、「Q17 剣道を続けているとよい姿勢が身につく」（人間形成）、「Q21 剣道を続けていれば、社会につくそうとする考えを持つようになる」（人間形成）、「Q24 剣道での打ち合いは痛みが強く、危険である」（安全性）については、「経験なし」群においても剣道授業を通じて、剣道の持つ技能特性や人間形成の側面の理解が進んだこと、防具をつけて体験してみることで安全性の理解が進んだことから「部活・道場群」との有意な差がなくなったものと考えられる。つまり、剣道経験の違いによる意識の違いを、剣道授業の履修により解消できた部分と考えられよう。

履修後に新たに有意差が生じた「Q29 剣道をおこ

表3 剣道経験の違いによる履修前後の意識の変化

	質問項目(32項目)中、3群間で有意さの見られた項目	履修前調査			履修後調査				
		3群間の差	交互作用			3群間の差	交互作用		
			経験なし群*授業群	経験なし群*部活・道場群	授業群*部活・道場群		経験なし群*授業群	経験なし群*部活・道場群	授業群*部活・道場群
履修前後とも有意差有り	Q1 剣道はスポーツの一種目である。	**	**	**	**	**	**		
	Q16 剣道を続けていると、日常生活でも礼儀正しくなる。	**	*		*	*			
	Q23 剣道のルールはむずかしくて理解できない。	**	**	*	*	*			
	Q26 剣道のきびしい練習をのりこえられる人は、限られた有能な人だけである。	*	*		**	**			
	Q32 剣道をおこなってみたい(続けたい)。	**	**		**	*	**		
履修前に有意さ有りだが、履修後に有意さ無しに変化	Q9 剣道では、高齢者と若者が対等に競い合える。	*			—				
	Q17 剣道を続けていると、良い姿勢が身につく。	*	*		—				
	Q21 剣道を続けていれば、社会につくそうとする考えを持つようになる。	*	*		—				
	Q24 剣道での打ち合いは痛みが強く、危険である。	*	*		—				
履修前に有意さ無しが、履修後に有意さ有りに変化	Q4 剣道をオリンピック種目にするよう働きかけるべきである。	—			**	**	**		
	Q8 剣道の教えや理論は古くて理解できない。	—			*	*			
	Q29 剣道をおこなう人たちは、身分(肩書)の上下関係を重視している。	—			*	*			
	Q30 剣道の有段者(または高段者)になってみたい。	—			*	*			

*p<.05 **p<.01

なう人たちは、身分（肩書）の上下関係を重視している」（上下関係）は、「経験なし群」ではより肯定的に、「授業」群はより否定的に捉えるようになった。これは、授業者が武道専門教員の高段者、かつ、剣道部顧問であり、TAが剣道部員という関係が、「経験なし群」では、段位や上下関係について初めて接し厳しさを感じさせる方向に、「授業」群では想像していたよりもソフトな関係に見えたということがあるかもしれない。一方、「経験なし群」、「授業群」では「Q4 剣道をオリンピック種目にするよう働きかけるべきである」（普及策）は、肯定的な意識を抱く方向に変化したものの、「Q8 剣道の教えや理論は古くて理解できない」（伝統的教えや習慣）、「Q30 剣道の有段者になってみたい」（興味・関心）は否定的に捉える方向に変化した。これは、剣道を日本の伝統的スポーツとして見ており、その普及には一般的に賛成であるが、剣道の伝統的教えや実技を、自らが関心や意欲を向ける対象にはしていないと見ることができよう。「経験なし群」では、「Q32 剣道をおこなってみたい」の回答が、履修後にさらに低下していることを併せて考えると、剣道授業の履修が必ずしも「経験なし群」の剣道への興味・関心を高めることができなかったといえる。

浅見（1995）は、見て分からない競技に関心を向けられないのは当然のことであり、「するスポーツ」としてだけではなく「みるスポーツ」の観点からの検討も必要があることを指摘している。将来、体育教員として剣道を指導する可能性がある受講生に対して、限られた授業時間数の中で自らの剣道への興味・関心を高め、将来生徒に剣道の楽しさを伝えていけるようにする上で、教職課程の剣道授業にはまだまだ多くの検討課題があるといえよう。剣道経験者には、上達を実感できる授業内容が必要となるが、自己の技術・技能の上達の楽しさだけでなく、未経験者の技術・技能の上達を喜びとすることができるようなねらいを、未経験者には、分かりにくいとされる剣道のルールを理解が段階的に進むことが実感できるようなねらいなど、剣道経験の違いに応じた学習目標を意識させる指導の必要性が示唆されよう。

V. まとめ

本研究では、大学教職課程体育専攻学生の剣道に対する意識について、剣道経験の違いによる意識の実態と履修前後の意識の変化について検討した。その結

果、履修前後とも剣道経験の違いによる意識の差が見られた。また、履修を通して意識の差が変化しないもの、履修後に差が解消されるもの、履修後に差が生じるものと、履修前後の意識の変化についても剣道経験の違いがあることが明らかとなった。教職課程の剣道授業においては、剣道授業受講学生の技術・技能に即した指導と共に、学生自身にも剣道経験の違いに応じた学習目標を意識させる等の指導の必要性が示唆された。

今後は、剣道経験の違いによる剣道に対する意識の変化について、さらにデータを積み重ね分析するとともに、学生の剣道授業の学習ニーズについても検討し、大学の教職課程における剣道授業のねらいや内容について精査していきたい。

引用・参考文献

- 浅見裕・太田順康他（1994）. 青年の剣道に対する意識について（1）, 武道学研究, 第27（Supplement）, 17-17.
- 浅見裕（1995）. 現代青年の剣道観についての研究－剣道人口減少問題に関連して－, 武道学研究, 第27巻, 第2号, 8-17.
- 中央教育審議会（2008）. 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）.
- 平田佳弘・櫻間建樹・朝岡正雄（2013）. 高校の授業実践を通して見える中学校における武道必修化の問題点, 環太平洋大学研究紀要（7）, 249-257.
- 平田佳弘・京林由季子（2014）. 教職課程専攻大学生の剣道に対する意識：剣道授業の学習ニーズの分析, 環太平洋大学研究紀要（8）, 217-221.
- 岩切公治（2012）. 高校生に対する剣道の意識調査－若潮杯争奪武道大会（剣道の部）を対象に－, 国際武道大学研究紀要, 27, 55-61.
- 木原資裕・今井三郎（1978）. 正課体育「剣道」受講生の剣道に対するイメージについて, 大学体育研究 5, 43-50.
- 金炫勇（2010）. 韓国剣道ナショナルチーム選手の剣道に対する意識, 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第二部, 第59号, 345-352.
- 草間益荒夫（1993）. 青年の剣道に対する意識－高校生・大学生を対象として－, 全国教育系大学剣道連盟研究部会, 29-52.
- 文部科学省（2008）. 中学校・学習指導要領解説（保健体育）.

- 文部科学省 (2009). 高等学校・学習指導要領解説 (保健体育).
- 文部科学省 (2010). 学校体育実技指導資料第1集 「剣道指導の手引き」参考資料新しい学習指導要領に基づく剣道指導に向けて.
- 中村民雄 (2010). 中学校武道必修化について－我が国固有の伝統と文化をどう伝えるか－, 武道学研究, 第42巻, 第3号, 1-9.
- 中村民雄 (2011). 中学校武道必修化について－武道の礼法－, 武道学研究, 第43巻, 第2号, 1-11.
- 小田佳子 (2012). 武道必修化を踏まえた剣道授業の指導力育成に関する検討：T大学教職履修学生武道（剣道）の授業評価から, 東海学園大学研究紀要, 自然科学研究編 (17), 11-23.
- 酒井利信 (1999). 生涯スポーツとしての剣道に関する一考察, トレーニング科学, 11 (2), 51-62.
- 田中守 (2007). 剣道における競技と人間形成, 国際武道大学紀要, 23, 1-6.
- 山上眞一・藤原章司・宮本賢作 (2012). 武道必修化に対する中学校保健体育科教員の意識について－特に剣道授業に関して－, 武道学研究, 第45巻別冊, 74.